

## ■企画展示

# 「奈良の妖怪をウォッチ！」

画：なかにゆか（紙芝居作家）

文：小我野明子（編集者&ライター）

場所：図書情報館 2F エントランス

※会期中 8/27[月]8/31[金]は休館日

※最終日の 9/2[日]は 16:00 まで



2018.  
8/21[火]  
|  
9/2[日]

たとえば、真っ暗闇のなか。ふと「なにか」の気配を感じたとき、人は「話に聞いたあの妖怪か」「この地で彷徨うあの不幸な幽霊か」などと、にわかには信じがたい出来事をなんとか「理解」したがるようです。

フィンランドのトーベ・ヤンソンが書いた「ムーミン」の主人公は、トロールという想像上の生き物。新約聖書で大天使ミカエルと戦ったドラゴン、アンデルセン童話の悲しいマーメイド、中国神話の麒麟（きりん）や鳳凰（ほうおう）など、この世に存在するはずのない生き物のお話は、世界中に数え切れないほどあります。

もちろん日本でも、不思議な生き物や怪異について、古来よりたくさん語り継がれてきました。科学や技術が発展して、夜の闇に怯えることがなくなった現代でも、怪異の話は次々に生まれています。たとえば、最近の子どもたちの間で話題になったという「LINE わらし」。スマホの LINE グループで楽しく会話していると、ふと気がつけば知らない子がひとり混じっている……という、まるで「座敷童子」のようなお話。どうやら人間はいつの時代になっても、妖怪や幽霊と離れることができないようです。

このたびは、絵本や紙芝居で活躍するなかにゆかさんが想像を巡らせて、奈良に伝わる妖怪エピソードのいくつかをビジュアル化しました。動物が変身したもの、おそろしい悪霊など、かつて奈良の人々が出合った妖怪たちの姿を、ぜひお楽しみください。ふと気づけば、今あなたの隣にも怪しい影がそっと寄り添っているかもしれません……。 (小我野明子)

## ■図書展示

# 「異界へようこそーあやかしの世界」

場所：図書情報館 3階貸出・返却カウンター前

妖怪とは何か、人と妖怪との関わりが時代によってどう変化したのか、当館資料を通じて知る機会となるよう、妖怪が描かれた絵巻物や民話伝説など妖怪に関する図書等を展示します。

講演者・金峯山寺長藤田中利典氏の著作や、本年1月にフランスで開催された「第45回アングレーム国際漫画祭」で「遺産賞」を日本人3人目として受賞した奈良県五條市ゆかりの漫画家椋図かずお氏の関連図書も紹介します。

2018.  
8/1[水]  
|  
9/2[日]

